

## 再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：鈴木克宗

<b>事業名</b> 一般国道 115号 土湯バイパス	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 福島県		
<b>起終点</b> 自：福島県福島市土湯温泉町 至：福島県耶麻郡猪苗代町若宮		<b>延長</b> 14.2 km		
<b>事業概要</b> 国道115号は福島県相馬市を起点とし、福島県耶麻郡猪苗代町に至る延長118kmの主要な幹線道路であり、広域的な連携・交流を促す重要な路線である。土湯バイパスは、幅員狭小、線形不良の隘路区間の解消により、冬期間においても安全で円滑な交通確保を目的とした、延長14.2kmの2車線道路である。				
S56年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	S56年度用地着手		
		S57年度工事着手		
<b>全体事業費</b>	約231億円	<b>事業進捗率</b>		
<b>計画交通量</b>	5,080台/日	<b>供用済延長</b>		
<b>費用対効果分析結果</b>	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 1.8	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体) 14 / 399億円 (事業費：10 / 371億円) (維持管理費：5 / 28億円)	<b>総便益</b> (残事業)/(事業全体) 25 / 597億円 (走行時間短縮便益：27 / 537億円) (走行費用減少便益：-2 / 50億円) (交通事故減少便益：0 / 10億円)	<b>基準年</b> 平成16年
<b>事業の効果等</b> ・個性ある地域の形成（主要な観光地（土湯温泉、磐梯山周辺）へのアクセスが改善される） ・災害への備え（異常気象時の事前通行規制区間を解消できる）			他2項目に該当	
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 国道115号は、地域交流の促進に重要な役割を果たすことが期待されており、福島市をはじめとする5市28町13村の首長で構成される国道115号線土湯峠改修促進協議会より早期整備の要望（平成16年7月13日）を受けている。				
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 緊急輸送道路第二次確保路線（平成9年度）に位置付けられ、より一層重要性が増している。				
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> これまでに、用地買収が完了し、主要構造物である横向大橋を含む終点側延長11.0kmを供用している。残る延長3.2km区間については、横道トンネルとその前後の改良工事を実施している。				
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 平成16年度までに用地買収が終了しており、横道トンネルおよび改良舗装工事を促進により、平成17年度の全線供用予定である。				
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 再生路盤材等の利用を積極的に進め、コスト縮減を図っている。				
<b>対応方針</b>	事業継続			
<b>対応方針決定の理由</b>	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性重要性は変わらないと考えられる。			
<b>事業概要図</b> 				

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものだ。